

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像
令和7年度 重点目標

社会の中で人とつながり、よりよく生きる子
社会とつながり、自ら学び、考えを表現できる子どもの育成。

堺市立赤坂台小学校
校長 大田 圭子

<p>「確かな学び」の現状</p> <p>・令和7年度 全国学力・学習状況調査児童質問紙において、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う」という問いに対し、84.8%の肯定的回答があった。しかし、国語、算数ともに「勉強が好きだ」という割合は、67.4%、65.2%と低い。課題に対して、「なんでなんだろう？取り組んでみたい！」「わかった！じゃあ、次は…」といった探究的な学びの授業づくりを研究、実践することで、子どもたちの学びに対する意欲を育み、学力向上につなげたい。また、基礎学力の定着を重点課題とし、家庭学習の充実を図る。学校図書館及び児童用パソコンを活用した探究的な活動に丁寧に取り組み、情報活用能力を育む。特別支援コーディネーターを核とした校内支援を進め、誰一人として取り残すことのない教育を推進する。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状</p> <p>・前年度の学校教育自己診断では「学校に行くことが楽しい」の項目で9割以上の肯定的な回答が得られているが、肯定的な回答ができなかった児童が一定数いることを真摯に受け止め、子ども一人ひとりと向き合った指導を行う。「いじめアンケート」等も活用していじめの未然防止に努め、子どもの道徳性や自尊感情の醸成を図り、豊かな心を育む。さらに、教職員の人権感覚に磨きをかけ、人権教育の基盤を盤石にする。</p> <p>・運動能力に関しては、堺市平均値に比べて課題のある項目がみられる。体を動かすことの心地よさや運動の楽しさを実感できる学習活動を継続的に実施し、解決を図る。6年生では、赤坂台学校群として連携して体育の授業に取り組む。また、全児童において運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を送ることができるよう家庭との連携を図る。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	総合的な学力の育成	読書習慣・情報活用としての学校図書館の利用の充実	学校図書館を活用して並行読書・調べ学習を行い、探究的な学びの一助とする。	「読書は好きですか」82%以上 「図書館を利用した学習は好きですか」82%以上	児童アンケート	年度末	○ 学校生活アンケートで好意的回答85%(達成)	A	・学校全体で、読書指導に取り組んだ結果、読書の好きな児童が多い。	A	・読書の好きな児童が多いとのこと。学校司書と連携し、教科等の学習と対応させながら図書コーナーの充実を図ってほしい。
		学びの系統性と教科横断的な学習のカリキュラムマネジメント	●★学校群のめざす子ども像の実現に向けて、小中9年間を見通した教科横断的なカリキュラムマネジメントを軸に、総合的な学習の時間に取り組む。	研修委員会、学校群会議での共有 教職員のふりかえり、児童生徒の変容	教職員アンケート	年度末	○ 6年キャリア教育、5年防災教育など各学年、年間を通して児童が目標を立てたり協働的に進めたりしながら取り組んでいる。	A	・3～6年で系統立てたテーマに取り組むとともに、学びのコンパスを活用した授業実践を意識し、個別最適・協働的な学びの実現につながる工夫を行った。学習参観や校内研修にて、公開授業を行った。	A	・学校群で小中が連携して取り組んだ防災教育を参観した。防災を日常から意識できるようリアルに近い感覚で体験できる機会を増やしてほしい。自分がどう社会とかわかってくるかが大切になる。学校群の取組はよくやっている。
		子ども自らが学びをすすめる授業づくり	●学びのコンパスを活用した単元計画、授業実践、協働的な学びによる学びの深まりを実感させる。各学年、学期に1回の研究授業の実施。	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」 85%以上	児童アンケート	年度末	○ 学校生活アンケートで好意的回答85%(達成)	A	・児童の回答も85%を達成することができた。	A	
	生きる力のもととなる基礎・基本の学力の定着	児童用パソコンを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの環境を整え、授業を行う。	「ICT 機器を活用することで自分のペースで理解しながら学習をすすめることができる」 82%以上	児童アンケート	年度末	○ 学校生活アンケートで好意的回答78%(目標を4%下回る)引き続き個別最適学習や総合学習での活用を積極的に進めていく。	B	・ICTを活用した個別最適・協働的な学びの実践を進めることができたが、学年や学級によって活用状況や児童がでることに差がある。学校全体として目標を決めて取り組みたい。	B	・教育活動におけるデジタル機器の導入について、ICTの活用は引き続き、積極的に進めてほしい。	
		基礎・基本と学習習慣の定着 ・自主学習ノートの充実 ・家庭学習・朝学習(国・算)の充実。	学期末テストで、読み・書き・計算の習得率80%以上	実践報告	年度末	○ 漢字など基礎学習などに取り組む漢字テストで平均90点以上。思考力・判断力を高めるため、の取組を引き続き行う。	B	・基礎学力をつける学習で一定の成果はあるが定着が必要である。	B	・基礎学力をつけるための学習については、今後の取組に期待したい。	
豊かな心の育成	豊かな心・健やかな体	「相手に対して思いやりをもった教職員集団 チーム赤坂台」を目標とし、豊かな人間性を育成できる学校づくりをめざす。	子どもに寄り添い、子どもを理解し指導する中で、居場所と出番のある教育活動を行い、子どもの自尊感情を育成する。	「自分にはよいところがある」 肯定的回答90%以上	児童アンケート	年度末	○ 児童アンケート結果 肯定的回答92% 教職員で児童理解を深める場を定期的にもち、指導につなげている。	A	・全職員で児童理解をすすめたことで、各教科の学習だけでなく、委員会活動やたわわり活動でも共通した指導・支援を行うことができた。	A	・学校全体で児童を見守り、支える指導・支援を引き続き行い、児童にとって居場所のある学校づくりに取り組んでほしい。
			●特別支援教育、国際理解教育、平和学習、など人権教育の充実。	「友達が困っているときには、自分からすすんで助けている。」肯定的回答90%以上	児童アンケート	12月頃	○ 児童アンケート結果 肯定的回答93.9% 各学年で行っている支援学級との交流会や国際理解教育も計画に沿って実施している。	A	そのことが児童の自己肯定感の向上につながっている。	A	・アンケートの回答については、肯定的な意見のみではなく、その他の意見も貴重な声として寄り添う姿勢を持ち続けることで、よりよい方策が見い出せるのではないかと。
			いじめ防止に向け、「仲間づくり」を大切に、子ども一人ひとりと向き合う学年・学級経営を行う。	「学校に行くことが楽しい」 児童・保護者ともに90%以上	児童アンケート 保護者アンケート	年度末	○ 毎月、各クラスの情報を共有。いじめについての認識を教職員内で統一し、学期末に生活アンケートを実施。全児童と個別面談を行うなど、いじめを見逃さないよう取り組んでいる。	B	・学校生活アンケートによると、「学校は楽しいですか」の項目で肯定的な回答が90%に満たなかったが、約85%の児童が肯定的な回答をしている。今後も、教室内外問わず居場所のある環境をつくり、児童理解に努めたい。	B	・地域の子どもを地域で協働して育てる良好な関係を引き続き、大切にしたい。
	健やかな体	運動に親しむ機会の充実 運動する習慣・意欲・能力を高める環境整備 早寝・早起き・朝ごはんといった基本的生活習慣の充実	体を動かすことの心地よさや運動の楽しさを実感し、さらに自己の記録等高みを目指せる授業展開に取り組む。 基本的生活習慣の定着に向けた取り組みを通して、健康について考える力を育む。また、保護者に向けた啓発を行う。	運動に楽しめる活動設定 各授業での体力づくりの工夫	実践報告	年度末	○ 体育委員会による「おにごっこ企画」の実施や授業での体育の工夫など運動に親しめる工夫をしている。	A	・「おにごっこ企画」を通して、授業のみならず、休み時間なども楽しく運動に取り組んだ。	A	・鬼ごっこ企画等、ユニークな取組を評価する。引き続き、児童が運動に親しむ企画を学校全体で盛り上げてほしい。
			早寝・早起き・朝ごはんについて 肯定的回答 90%以上	生活習慣アンケート	年度末	○ 生活習慣チェック(1週間)を年に2回実施。5日以上実施89% 保健委員会の活動と共に、保護者への啓発活動も続ける。	A	・生活習慣チェックの結果から、睡眠時間について、12月は7月よりもよくなったが、朝食・排便については下回る結果となった。保健指導を充実させ、望ましい生活習慣の形成を図る。	A	・朝食、運動、睡眠の大切さは、多くの研究結果が出ている。望ましい生活習慣の形成について、今後も家庭と一緒に取り組んでほしい。	
(信頼される学校)	安心・安全	地域・家庭から信頼される学校づくりを行う。	毎月の安全点検、避難訓練等 子どもの安全を守るための危機管理の徹底	訓練でのふりかえり	実践報告	年度末	○ 訓練の事前、事後に全体指導や学級指導を実施。訓練も真剣に取り組んでいる。	A	・学級での安全指導、訓練や全体指導も真剣に取り組むことができた。	A	・安全点検、避難訓練等、学校安全計画に基づいた指導について、引き続きお願いする。
			学校ホームページ等による情報発信 緊急時の対応	学校HP充実、校報の充実 緊急時の対応周知や情報発信の充実	実践報告 保護者アンケート	年度末	○ Teturu で校報や学年通信など発信。学校HPの更新等、情報発信の充実にも努めている。	A	・学校アンケートから 89%の肯定評価を得ることができた。引き続き、teturu や学校HPを活用し、積極的な情報発信を行う。	A	・情報発信については、さまざまな工夫を凝らすことで閲覧数が増えるよう期待している。

校長より (年度末)

今年度は、幼小の連携(架け橋プログラム)を新たにスタートして、小中連携とともに15年間を見通した子どもの学びに取り組むことができた。校種間連携による新たな気づきは、「探究的な学び」「学びに向かう力の育成」のヒントとなった。次年度は、子どもたちの学力向上の一環として、柔軟な教育課程の実施やICTの活用による「基礎基本の定着」「学びの基礎力の育成」をめざしていきたい。また、自他ともに尊重する精神は、子どもたち同士の学びあい、支えあいに直結している。子どもが安心して通える学校をめざして、学力向上となかまづくりを両輪に、次年度以降取り組んでいく所存である。

学校関係者評価者から (年度末)

学校群の取組は、小中連携・小中連携、地域協働の充実が同え、成果が見られる。バーチャルな時代が進む一方で、体験をともなう実感のある教育活動、自分ごととして捉えられ児童による展開の工夫に期待している。ICT を効果的に取り入れ、児童の興味関心を引き出しながら、情報活用能力の向上や課題解決に向けた資質・能力の育成について、学校力を発揮してほしい。地域全体で児童の成長を見守る体制づくりについて、今後も協力して取り組みたい。